

4章 外壁改修工事

6節 塗り仕上げ外壁等の改修

4.6.1 一般事項

この節は、既存の仕上塗材塗り仕上げ等を改修する場合及びコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合に適用する。

4.6.2 仕上塗材仕上げ

- (1) 施工に先立ち、見本帳又は見本塗板を監督職員に提出する。なお見本塗板は、所要量又は塗厚が工程ごとに確認できるものとする。
- (2) 仕上げ工程の放置時間等は、7.1.4[施工一般](8)による。
- (3) 施工場所の気温が低い場合は、7.1.6[施工管理](1)による。
- (4) 降雨、多湿等により結露のおそれのある場合又は強風時には、原則として行わない。
- (5) 仕上げに溶剤を用いる場合は、換気をよくして、溶剤による中毒を起さないようにする。
- (6) 所要量等の確認方法は、防水形の仕上塗材の場合、単位面積当たりの使用量によることを標準とする。また、仕上りの程度の確認は、表4.6.1による。

表4.6.1 仕上りの程度の確認

確認項目	仕上りの程度
見本帳又は見本塗板との比較	見本と色合、模様、つや等の程度が同様であること。
塗り面の状態	むら、はじき等がないこと。

- (7) シーリング面に仕上塗材仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化した後に行うものとし、塗重ね適合性を確認し、必要な処理を行う。
- (8) 各種塗料塗りを行う場合は、7章 [塗装改修工事] による。
- (9) コンクリートの表面のひび割れ部及び欠損部の処置は、3節による。
- (10) モルタルの表面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処置は、4節による。

4.6.3 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

- (1) 既存塗膜の劣化部の除去、下地処理及び下地調整は、次により、工法は特記による。
 - (ア) サンダー工法
 - (イ) 高圧水洗工法
 - (ウ) 塗膜はく離剤工法
 - (エ) 水洗い工法

4章 外壁改修工事

- (2) 下地調整で、下地調整塗材に代えてポリマーセメントモルタルを使用する場合は、特記による。
- (3) サンダー工法は、次による。
- (ア) 工法は表4.6.2により、処理範囲は特記による。特記がなければ、既存仕上げ面全体とする。

表4.6.2 サンダー工法

工 程		除去・下地処理・下地調整方法
1	劣化膜の除去	ぜい弱化した塗膜の表面及びびくれ等をサンダー、スクレーパー等により除去する。
2	下地処理（下地のひび割れ部等の補修）	特記による。
3	下地 水洗い・清掃	粉化物、付着物等は、高圧水洗機を使用して除去し、清掃を行う。
4	下地調整 下地調整材塗り	サンダー等により部分的に除去した箇所を、セメント系下地調整塗材を充填し、段差のないよう全体を調整する。 なお、使用する下地調整塗材等は4.6.4による。

- (イ) 高圧水洗機は、粉化物、付着物等の除去に適したのものとする。
- (4) 高圧水洗工法は、次による。
- (ア) 工程は表4.6.3により、処理範囲は特記による。特記がなければ、既存仕上げ面全体とする。

表4.6.3 高圧水洗工法

工 程		除去・下地処理・下地調整方法
1	既存塗膜及び下地の劣化部の除去	高圧水洗機を使用し、既存塗膜及び下地コンクリートの劣化部を除去する。
2	下地処理（下地のひび割れ部等の補修）	特記による。
3	下地調整	高圧水洗機により除去した箇所を下地調整塗材でしごき塗りをを行い、平らに仕上げる。 なお、使用する下地調整塗材等は4.6.4による。

- (イ) 高圧水洗機の加圧力は、コンクリート表面及び既存塗膜の付着強度により異なるため、試験施工を行い、監督職員の承諾を受ける。
- (ウ) 高圧水洗機を使用し、既存塗膜を除去する場合は、施工に関する十分な経験と技能を有する技術者の施工とする。
なお、高圧水による事故の防止に努める。
- (エ) 床版下及び厚付け仕上塗材仕上等の場合は、工程3を省略する。

4章 外壁改修工事

(5) 塗膜はく離剤工法は、次による。

[S K K推奨下地補修材]

分 類	S K K 該 当 製 品
塗膜はく離剤	ハクリタイトソフト

(ア) 工程は表4.6.4により、処理範囲は特記による。特記がなければ、既存仕上げ面全体とする。

表4.6.4 塗膜はく離剤工法

工 程		除去・下地処理・下地調整方法
1	塗膜の除去	塗膜はく離剤を使用し、スクレーパー等により既存塗膜を全て除去する。
2	下地処理（下地のひび割れ部等の補修）	特記による。
3	下地調整 水洗い	塗膜、粉化物等の除去、清掃を行う。
4	下地調整 下地調整材塗り	全面に下地調整塗材でしごき塗りを行い、平らに仕上げる。 なお、使用する下地調整塗材等は4.6.4による。

(イ) 塗膜はく離剤は、試験施工を行い、監督職員の承諾を受ける。

(ウ) 塗膜はく離剤を使用し、既存塗膜を除去する場合は、はく離剤等が残り、新規塗膜に影響を与えることのないよう除去する。

(エ) 床版下及び厚付け仕上塗材仕上等の場合は、工程4を省略する。

(6) 水洗い工法は、次による。

(ア) 工程は表4.6.5により、処理範囲は特記による。特記がなければ、(3)から(5)までの処理範囲以外の既存仕上面全面とする。

表4.6.5 水洗い工法

工 程		除去・下地処理方法
1	下地処理（下地のひび割れ部等の補修）	特記による。
2	水洗い・清掃	粉化物、付着物等は、デッキブラシ等を用いて水洗いし、除去・清掃する。

(イ) 水洗いで、デッキブラシによる水洗いに代えて、高圧水洗機を使用する場合は、粉化物・付着物等の除去に適した加圧力のあるものとし、監督職員の承諾を受ける。

(7) モルタル下地の仕上げは表4.6.6により、仕上塗材の種類に応じた○印の仕上げとする。

4章 外壁改修工事

表4.6.6 仕上塗材の種類に応じたモルタル下地の仕上げ

仕上塗材の種類 (呼び名)	モルタル下地の仕上げ			備考
	はけ引き	金ごて	木ごて	
外装薄塗材Si、外装薄塗材E、 外装薄塗材S、外装厚塗材Si、 外装厚塗材E、複層塗材CE、 複層塗材Si、複層塗材E	○	○	○	薄塗材の場合は、 金ごて又は木ごて
外装厚塗材C	○	—	○	—
可とう形外装薄塗材Si、 可とう形外装薄塗材E、 防水形外装薄塗材E、 可とう形複層塗材CE、 複層塗材RE、 防水形複層塗材CE、 防水形複層塗材E、 防水形複層塗材RE	—	○	—	—
可とう形改修塗材E、 可とう形改修塗材RE、 可とう形改修塗材CE	—	—	—	—

(注) 可とう形改修塗材は、既存塗膜を下地とする改修に適用する。

- (8) ALCパネル下地の場合、ALCパネル面の欠け、穴等は、ALCパネルの製造所の指定する補修用材料(既調合のもの)で平滑にする。
- (9) 押出成形セメント板下地の場合は、押出成形セメント板面の欠け、表面の傷等を押出成形セメント板の製造所の指定する補修材料で平滑にする。

4.6.4

既存コンクリート
打放し仕上げ外壁、
既存モルタル塗り
仕上げ外壁等の
下地調整

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合の下地調整は、次による。

- (ア) コンクリートの下地調整は、次による。
 - (a) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。
 - (b) 下地面の清掃を行う。
 - (c) 下地調整塗材C-2を、1～2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面及び厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。
 - (d) 下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗り付けることができる。
 - (e) 下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材CM-2を平滑に塗り

4章 外壁改修工事

付ける。

- (イ) モルタル、プラスター及びプレキャストコンクリート面の下地調整は、次による。
 - (a) 下地面の清掃を行う。
 - (b) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、仕上塗材の下塗材で代用する場合は、省略することができる。
- (ウ) ALCパネル面の下地調整は、次による。
 - (a) 下地面の清掃を行う。
 - (b) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、下地調整材Eで代用する場合は、省略することができる。
 - (c) 仕上塗材の製造所の仕様により下地調整塗材C-1又は下地調整塗材Eを全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、外装薄塗材S仕上げの場合は、下地調整塗材C-2を全面に塗り付けて、平滑にする。
- (エ) 押出成形セメント板面の下地調整は、次による。
 - (a) 下地面の清掃を行う。
 - (b) 日本建築学会材料規格JASS 18 M-201[反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応硬化形合成樹脂シーラー]に基づく塗料を全面に塗り付ける。
 なお、仕上塗材の製造所の仕様により、下塗材をJASS 18 M-201に基づく塗料で、代用することができる。